

第6回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日時】平成22年3月16日（火） 14時00分～15時55分

【出席者】委員：9名

事務局：共働推進課長、市民共働班長、生涯学習課政策監、政策企画課長、
まちづくり推進室3名
コンサルタント：3名

1 開会

委員長挨拶：パブリックコメントも終わり、今日が最後の委員会ですので、いつものように活発なご意見をお願いしたい。

2 案件

(1)パブリックコメント等の意見について

(2)(仮称)学習文化交流施設基本計画(案)

事務局にて資料1、資料2を説明

意見・質疑

委員長：パブリックコメントの手法を簡単に説明願う。

事務局：2月1日から30日間実施した。素案と意見提出用紙を市役所の政策企画課、支所に備え付け、市ホームページでも公表した。意見の提出方法は郵送のほか、メール、FAX。

委員：基本計画P6基本方針の、の記述で言葉が重複している。新しいサービス、システムを導入出来ることと、資料の増加に対応するのは違うもの。新しいサービス、資料増加、システムと3つの機能を意図していると思うが、どちらかにするか、を分けて記載した方がわかりやすい。

事務局：は施設の整備段階、はその先の将来の段階を意図した。

委員：は現行でやるサービスの対応、はこれからそういう余裕を持たせるという意味か？

事務局：そう考えている。

委員長：私はソフトとハードかと受け止めた。はハード面で新しい施設を充実していきたいという表現かと。後段は空間が出来上がって以降で、システムとしては対応していきたいという内容かと思うが。ただ、「対応できる空間にします」となっていると上とやや重なっていると同じような印象を持った。

委員：図書館システムは当初は導入しないのか？

事務局：システムの導入もしながら。

委員：新図書館完成した時に図書館システム入っているかどうかということ。もしに入れるのであれば、当初システムが入らないことになる。システム導入するのであれば、入れない方が良い。

事務局：新しい図書館で新しいサービス、システムを導入するが、将来的に更にとという意味。

委員：この文章では、当初は入らないでこれからやります、という意味にとられる。

委員：パブリックコメントの回答について3点確認したい。15番の駐車場について臨時駐車場はどこを想定しているのか？ 2点目は21番、循環バスの運行概要を知りたい。3点目は27番、“図書館は人が一番大事”ということはそのとおりだと思う。特に図書館の場合はソフト面で充実していなければ、設備がよくても血液が通わない。どういうことを検討していけばいいのか？

事務局：1点目、15番は近隣の駐車場が使えれば出来るだけ使いたいと考えている。それと現在の花輪市民センターを想定している。2点目、21番は昨年の循環バスの試験運行同様に“あんたらあ”から市街地を通り、柴内に抜け新しく建つ病院、市役所、駅前を経由するバスを平成22年度運行することとした。27番は来年度、図書館の管理運営・サービス計画の中で決めていきたい。

委員：アクセスは花輪の人だけの施設と思われぬためにも重要。

委員：どこかに行く時に車が置ける場所があるかは最初に気になる。最後の詰めとしてアクセスの問題を考えていただければ。MITプラザは車を置く場所がない。最重点課題として考えていただきたい。循環バスについては自治会内で馬場を通ることを検討して欲しいとの意見が出ており、検討に加えていただきたい。今までは病院が中心であったので、図書館も含めて広く集ってもらえるためのアクセス、駐車場問題として考えていただければありがたい。

委員：道路から施設へのアクセスについて何人もの人から懸念する意見を頂いた。裏側の道が細く、南側の一方通行は狭く国道に出る時に混雑し、事故が起きる心配をしている。車道と歩道が分離されておらず、歩行者はどうするのかという意見もある。

事務局：いろいろな場面でそういったお話を伺っており、敷地の西側と南側の拡幅、歩行者と車両の分離といった点にも十分配慮していく。計画書ではP16で計画上の留意点としてまとめており、アクセスについては重要な課題だと認識している。

委員長：アプローチの問題については、民地の問題もありなかなか難しいが、解決出来ればもっとスムーズな入り方が出来るかと思う。

委員：意見に対する回答はどのように？

事務局：パブリックコメントは要綱に基づいて実施している。名前は伏せ、ご意見の内容と市の考え方、修正の内容を公表する。

委員：パブリックコメントの配置場所として市役所と支所だけではなく、市民センターや図書館の当該施設にも置いていただきたい。

事務局：基本設計の段階でもパブリックコメントを実施することになるかと思うので、配慮したい。

委員：パブリックコメントの件数は35件だが、提出者は何名か？

事務局：人数としては5名の方からそれぞれいろいろな項目について意見を頂いた。

委員：パブリックコメントを市役所や支所に置いてやっけても、足を運ばなかったり、知らなかった方も沢山いらっちゃったと思う。いろいろな人の意見を聞くべきで、その為の時間をもっととるべきではないかといろいろな人に言われた。いま早急にこの施設を造らなければならない意味も沢山の方から問われ、いま本当に必要なのかも問われた。30何億円も掛かる施設であり、金額に見合った時間をかけ、沢山の人がいろいろな所で話し合い、時間を掛け集約し、本当に必要

かどうか検証してみてもいいと思う。

事務局：大多数の市民の方が施設の建設に時期尚早とのご意見であれば当然そういうことになるかと。施設の必要性が今一つ、ということについては、中心市街地の空洞化を長引かせない、そのために検討して来た経緯で、これからもいろいろご意見があれば伺いたいと思うが、こちらとしてもなるべくご理解して頂けるように説明したい。必ずしも施設が不必要なものではなく、もっと時間をかけて、お金もかかる施設なので、というご意見はまったくそのとおり。だからこそ広く市民の皆さんの意見を聞かなければならない。今までの検討委員会で70項目ぐらい意見を伺い、その上で最初の基本計画を作らせて頂き、さらに市民の皆さんの意見を反映させるためパブリックコメントを実施した。残念ながらパブリックコメントを知らなかった方はいらっしゃるかと思うが、パブリックコメントは最終的な段階での市民の方の意見を伺う機会と考えている。今回は広報と地元新聞でお知らせしたが、さらに市民の皆さんに伝わるよう配慮していきたい。今回はあくまでも基本計画で、具体的な内容の基本設計の段階でもより使いやすくして満足していただける施設にするためには市民の皆さんの意見を伺わなければならないと思っている。今回で終わりということではなく、施設の建設についてはご理解いただきたいと思うが、どういう施設にしたら良いかということについては、これからも随時ご意見を伺いたいと思う。

委員：P2に求められる課題と市民意識があるが、それが基本計画をつくる上での根拠になる。この市民意識の書き方で、この調査で得られたデータはこれだけか？図書館との複合機能について、と限定した書き方だが。本来はこういう施設が必要ということがまとめられていなければおかしい。複合機能というタイトルは少し狭い気がする。中身はそういうわけでもないのに、タイトルと中身が合っていない。むしろ無い方がいいのでは？

事務局：図書館は平成16年に市街地の中のどこがベストなのか教育委員会で検討した。当時病院の移転が決まっており、移転後の敷地がベストとの結論から市民意識調査の項目は図書館との複合機能ということで調査を行った。

委員：図書館を造ることが前提としてあって、他に何を造るかの意識調査をされた。初めて見ればそれがわからない。経緯が書ければ、前提論として必要というご意見もあると思う。私も長らく図書館に関わってきた人間だが、平成5年の時点で図書館の立て替えの要望があったと記憶している。古い図書館で、全体的に市では一番古いというか建物としては不十分で、建て替えが必要という議論がその当時からあったと認識している。まったく喫緊の必要性がない話ではない。いつ倒れても不思議でなく、私達としても早く建てていただければと考えている。他の市町村はほとんど建てられ、むしろ遅きに失しているレベル。古い建物でずっと10数年間も我慢してこられた。老朽化して非常に危険な状況の中で、こういう施設の検討をしたということ、市民の方がわかりやすい表現をされれば良いと思う。

委員：図書館が必要なのは市民も一目瞭然。その後に複合的ないろいろなもの加わってきたのは発想として私は素晴らしいと思う。理念の意見で「鹿角市全体をコーディネートしてほしい」とあり、その発想がやっと出てきた。八幡平とか大湯とか花輪以外の旧町村をどう繋がりを持ってそこに集めていくことがいま一番鹿角市には必要ではないか。あちこちにいろんな建物があるが、それを有機的に繋ぐ発想が無い。MITプラザにしても、花輪の人が使う、という発想になれば一番まずい。

委員：7番に手書きの貸出カードが遅れているとあるが、私は図書館は機械のボタンを押すのではなく、

自分の字で手書きのカードに書けと思う。

委員：これから図書館を建てると利用者が凄く増える。新しい図書館は想定より増える傾向がある。こういうやり方は職員の負担がとて大きい。バーコードのやり方が早い。利用者の負担もあるが、プライバシーの侵害にもなる。いろんな意味でいまは貸出カードはやらなくなった。これは電算化された方がよい。

委員長：手書きカードは利用者の負担だけではなく管理側の問題も。新しいシステムを導入された方がよろしいかと。

委員：この施設が小中学生が全部集まる想定で700席と設けられたことを私は凄く評価している。鹿角市の子供はスポーツは駅伝とか凄く立派なところがあるが、文化面で今一つ自信を持てるものが多くない。私が子供たちの文化面で凄く思っているのは合唱。合唱は凄く上手い。各学校の代表の合唱の人が一緒に集まってスポーツセンターで合唱祭をやっている。その出場を目指して凄くがんばる。中学生であれ、小学生であれ涙が出るくらい素晴らしい合唱をする。終わった後には泣きながら降りてくる。そういう場を何回も目にしている。全部集まった子供たちで市民歌を唄うということになれば凄く大きなインパクトがあると思っている。そういう意味で、700集まるということ、その意義はもの凄く大きいと思う。したがって、この建物が時期尚早というものではもうないと思う。文化会館は何十年と切望してきた。図書館はもうどうしようもないくらい古くなっている。そして、いま集まりやすい場所が空いている。出来るだけゆっくり詰めた計画という考え方もあると思うが、一生懸命検討し出来るだけ早く、という考え方もある。

委員長：いまお話を伺いながら、情景が浮かんだ。子供たちが合唱しているという具体的なイメージを持って、今回の施設を皆さん議論されてきたのかどうか大事なところ。こういう施設はこのまちにこういうものがあって、こういう場面で、こういうふうに使っていく、ということがもっと出るとよい。これから基本設計に入っていくが、その中でもう少しこれから先ワークショップ的なことも含めて市民のご意見も聞いていきたいというお話あったが、具体的な議論がもっとあるともう少し皆さんの中にいろんなイメージが湧いてくる。ぜひ少し具体的に基本設計の中で進められるといいかと思う。

委員：いまのお話は書けないのか？P8で客席がいきなり700と出て来てわかりにくい。いま聞けばなるほどと思った。全市の子供たちが入るイメージは凄くインパクトのある根拠。書けば皆さんもわかるのではないか。児童生徒数とは違うのかもしれないが、どうして700なのかは誰もが疑問を持つ。明確な根拠があれば訴える力が強い。

委員：どうして700なのかはあちこちから聞かれた。700の根拠が生徒たちだと言うと、みんなすぐ納得する。凄くいい根拠。

委員：P23で具体的な事業年度を書けないのであれば、管理運営計画に2年とか、スパンを入れては？これを見ても10年でやるのか、5年でやるのか、さっぱりわからない。

事務局：来年策定する再来年から10年間の市の基本になる総合計画の中で明らかになる内容のため、このような表示しか出来ない。事情をご理解いただきたい。

委員長：時間量を示してください、という話。スタートの時期を記入するのは難しいかと思うが、事業全体をスタートするのに例えば3年かかりますとか。あるいはそのトータルの中で基本計画に何カ月かかりますとか。それも難しいか？

事務局：組合病院が移転後、22年度から23年度へかけて現在の施設を解体するとのこと。解体後更地にし、市として取得出来る段階になればすぐ取得することになると思う。最後まで年次

をはっきり出来ない訳ではなく、次の10年間の計画は22年度中に策定するので、建設内容も含めて来年度中にははっきりする。

委員：スタートは書かなくてもいい。要するに必要な期間。管理運営計画を何年掛けるか。基本設計からであれば誰でもわかる。管理運営計画の後は最低でも1年から2年掛けなければいけない。適当にやれば後で困る。そういうことを概ね書いておけばいいのでは？

委員長：具体の時期は市の方の今後のスケジュールもあると思うので、委員会としては時間がわかるのがあればいいのではないかという意見があったということで。後は報告書にどのようにまとめるかについてはご検討いただくということで。

委員：第5回の会議でロッカーの問題が上がっていた。図書館には必ずロッカーを置くべきで、文化ホールの入りにあった方がいいが、その部分について今回の素案には記載されなかったのか？

事務局：共用部分で考えて行きたい考えではいる。ただ、そこまでは今回共用部分の内容として具体的には記載していない。

委員：図書館に行くと、図書館にはかばんとか持ち込めないようにしている。盗難防止とか含めて。よく入り口に置いてあり、ロッカーは図書館の機能に入れるなり明確にしておいた方が良い。市民センターに来られる方は、ロッカーとは別に普段練習で使う道具の保管場所がキープされるのか凄く心配する。市民センターの現在の教材室とは別に団体が使う物置き場を考えなければならないと思うが、この計画書には入っていない。

事務局：団体が占有して使うロッカー的なスペースは、現在の市民センターでも、確かに置いている団体多少ある事は存じあげているが、現在の施設整備計画の中では特段考慮しない。

委員：例えば、ソーイングサークルは毎回ミシン持って来なければならないのかという話になる。いまはミシンを使う部屋の作り棚に中に入れて鍵をかけて保管している。ラジカセを使う団体は、各団体で自分たちのラジカセを持ってきて、預かるスペースを事務室裏のスペースに設けて置いている。冬のこの時期はもって歩けない、と今から言われているので、批判が出るのは目に見えているので、つくった方がいい。さくらホールにもあったが、ああいうスペースは絶対的に必要

委員長：どういう団体がどういうふうにするかということに関わってくる話かと思うが、そういう想定でこれまで議論を進めて来なかったので、お話のようにどのサークルがどう使われているか、どういうものを持っているのか、どれぐらいのサークルがいるのかという前提でそれを整理しなければならない話かと思う。話としては重要な話かとお伺いしたが、この辺については基本設計の段階でそういうものも取り込むことは可能か？

事務局：今後の検討の中で管理運営サービス計画と基本設計の期間を重ねて連携する事も考えている。いろいろなご意見もあるでしょうし、管理上いろいろな問題点もあると思うので、その検討の中で、話し合いしながら出来れば。

委員長：いま出ているお話は、これから段々計画が具体的になって来ると、更にいろいろ出て来るとかと思う。当然調整されたり、あるいは意見を伺う機会あるかと思うが、そういう場でちゃんと吸収出来るような機会があるということのよう。

委員：文化ホールが無ければ、もっとこの施設はゆったりと充実して、駐車場も取れ、良いものになる。文化ホールは欲しいが、この狭いまちの真ん中に持ってくるのが、果たしてこれからそれを活かしていくことになるのか。文化ホールはやはり駐車場がゆったりとれる交通の便の良いところにあった方がいい。そんなに使われる頻度も無いのであれば、まち中にはもっと、例えば市民が

使いやすい市民センターのホールのもっと大きいものがあつた方が。図書館と市民センターは凄く欲しいが、文化ホールも欲しいが、ここに全部詰めることが使いやすさに繋がるのか疑問。県立図書館の方はいろいろな所を見ていらっしやと思うが、こういうまち中に文化ホールがあつて活かされている実例はあるか？

委員：ホールはやはり難しい。図書館とホールは複合施設として難しい組み合わせ。よほど上手くやらないといけない。この4つを見てみると、他の3つは簡単に出来るが、文化ホールと他の施設の複合的な使い方はソフトの部分を管理基本計画で相当工夫されないと上手く使えない。バッティングする施設であるのは間違いない。全国的にも上手くいかないパターン。これに反対するものではないが、私も最初から危惧していた。県内もみんな失敗している。これからつくる本荘市がほぼ同じパターン。ホールと図書館、駅前、組合病院の跡地まで同じ。県内では他に鷹巣、大仙市の協和町などいくつかある。県外でも最近大船渡などいくつか見て来たが、同じようなホールと図書館、確かにそのパターンは多い。他に建てるより一本で建てた方が明らかにコスト的に安いので、一緒に建てる意味はある。もし一方が必要ないというのであればそもそも要らない話だが、そういう議論ではない。ホールも図書館もある程度必要という前提の話かと思っている。選択としてはあり得るが、ソフトの面もありよほど上手くやらないと危険だと思う。基本計画では、いろいろと書かれていて、その辺は良く出来ているかと思う。ただ、実際にやられる時に不安なことは間違いない。この基本計画よりも次の管理計画がとても大事で、ソフトをどうつくっていくか、例えば図書館と他の施設、あるいは市民センターとホールの兼ね合い、子育て支援とホールの兼ね合いというものを相当上手く考えなければ。ソフト面での連携が上手くいけば成功例になるかもしれない。そこが肝心のポイント。やり方次第。いろいろ見て来ている方は、委員長も含め多分同じかと。

委員長：私はうまくいかないとは思っていない。今回の計画は相乗的な効果を狙っている。この上位の計画もあるが、市街地、商店街全体の活性化という狙いがあつたかと思う。先ほどコンパクトにして駐車場を増やした方が良いというご意見があつたかと思うが、別の考え方をすると、駐車場を一定程度分散させることが計画に入っている。分散させるということは、それだけまちの中を人が回遊するという。そういうのを上手く仕組んでいくと、拠点だけではなく、いくつかの駐車場から回遊して来ることによって商店街そのものが活性化する仕組みだって出来る。だから、必ずしも駐車場1カ所に置くのが良いのかどうか。土地を上手く活かしながら、場合に拠ってはそういうまちの中を人を歩かせるという仕組みも出来る訳だから、必ずしもマイナスではないと思う。

事務局：敷地が狭いということで、中途半端な施設を建設するという考え方を与えてしまったのは大変申し訳ない。決して、4つの機能を持った複合施設だから中途半端なものとは考えていない。そんなに大規模なものは建設出来ない面はあるが、現在の鹿角市にとっては適切なものではないかと受け止めている。

委員：駐車場は通り抜け出来た方がいい。現在の市民センターも駐車場が両側にあるが、繋がっていいと良く思う。これも結局分散された駐車場になるわけで、それを回遊出来るようにするためには、せっかくつくりようとしている外の交流広場が狭くなるなど犠牲が出るかと思うと、文化ホールだけがネックに見えて来た。

事務局：言われることはわかる。駐車場は不足する場合はまち中の駐車場を使つていただく。出入口は分散して確保しなければ、特にホールでイベントがある時には大変混雑すると捉えている。現在の計画は、あくまでも組合病院の跡地で考えているが、アクセスはいずれどちらかの方向にかは開かなければならないとは思っている。

委員 : 文化ホールを郊外に建てるのは好ましくない。まちが拡散し、まちづくりにならない。人がまちを歩かない。秋田市もそうで真ん中がゴースタウン。やはり何か核施設がまち中に必要。それが図書館、文化ホールであったりする。駐車場の問題は、県立図書館は実際70台で1600人をカバーしている。これよりずっと厳しい。常時300人くらい居るが、それでも70台。常に不満があるが、ちょっと離れたところの共同駐車場から歩いて来ていただいたりしている。駐車場は、本当は近場であれば良いが、少し離れたところで擬似的なものがカバー出来るのではないか。それがまちの賑わいにもなったりする。途中にお店があれば買っていってくれるし、逆に考えれば良い点もある。今後、高齢者がこのまちの中で増えていった時に果たして郊外で良いかという問題もある。歩いて行けない郊外に施設が建ってしまうと車で行かなければいけない。自由に行けなくなる。車が田舎は前提になっているようだが、実はそうやってみんな拡散していつてしまっている。まちの一番良い場所に核の文化ホールとか図書館とかこういうのがあると、ある程度の活性化は見込まれる。ここの交流機能とかがすごく大事になる。用事が無くても集まれるような何かの要素が上手くあれば、おそらく上手くいく。そういうものが上手くいかないとなれば、バラバラの機能になってしまうので、失敗する。この計画には交流広場という屋内の施設があって、これにすごく希望が持てる。この考え方はいままであまり無い。ここを上手くやれば良い。そう考えれば、ものは使いようになるのではないか。これでも十分に出来ると思う。

委員 : 芸文協としては、私自信はなくても今までやってきたので、今ある施設を使えばいいという考え。いま花輪市民センターを借りて演劇をしているが、明かりを全部シャットアウト出来ず、夜しか公演出来なかった。交流センターは設備があるが、お年寄りの方は足の問題で来られない。それで市民センターで工夫して、黒いビニールを窓に全部貼ってなんとかやっている。その都度400の椅子を出し、終わってからは片付けなければならない。みんなその時に、”貧乏な鹿角市に生まれて損。上小阿仁村でもちゃんと施設がある。”と言いながら汗を流している。汗を流すことを、みんなで共同でつくるための準備だと思えばそれはそれで良いが。ただ、子供たちにももう少し良い環境でいろんな発表をさせたい。それから、演劇を見に来た人は終わってから食堂に流れる。食堂の方からは、演劇見たら半券とか割引券を出せと言われる。そのくらい、いろんなところに波及して行く。やはりホールは舞台で何かを見るだけではなく、そこをみんなで共同で使うとそういう交流が出来るのではないか。そういう点では、郊外にぽつんとあるよりもいろんな施設と一緒にあって街中にある方が良い。

委員 : 街中の広いスペースを文化ホールがシェアするのをどうかと思っただが、頻繁に使って頂ける施設にしていくことを考えれば、街中にあることはとても良いこと。

委員 : この施設をつくる事は賑わいをつくる事だと私は思っている。鹿角市は本当はたくさん誇るべきものがあるが、若い人がそれに気が付かない。一堂に会する機会が少なかったため、鹿角に誇りを持つことが少ない。学校で文化祭に劇を出すのが、各学校の代表が市民ホールでやったり、いま支所ごとに芸能発表会をやっていると思うが、その代表がそこでやれば鹿角市民の一体感が醸成できる。そういう使い方をしていけば市民が自分たちの、鹿角市民としての誇りを持つようなものに繋がると同時に賑わいづくりにもなっていくと思っている。

委員 : 図書館を利用し何冊か借りると商店街の割引券がもらえるところもある。やはり人が集まるのは良いこと。ただ、それをそのまま帰してしまうのが問題。駐車場が近くに無い方が良いかもしれない。帰る道筋に商店があって、そこの割引券が配られれば、むしろ賑わいになる。まちにとって、両方ともウィンウィンの関係になる。この計画に入れる必要はもちろんだが、そういう施設と他のところとの連携を少し考えれば上手くいくのではないか。P8にも「市

民利用を中心としたホール」と書いてあるがすごく大事な言葉。中央からアーティストを呼んで来る採算ラインは800～1000にあり、700では絶対合わない。ここは身近に使えるとのご意見が何人かから出たが、それがこのキーではないか？中央からアーティストを呼ぶのではなく、市民が気軽にどんどん使えて、日常的にどんどん入って来るような施設にソフト面でしなければならない。

委員：先日、由利本荘の複合施設の建設現場を見て優れていると思った点は2点。複合施設の中を通学路が通っており、高校生たちが通り抜けることになる。だまっていても人が集まる、通ることを創出出来る。鹿角の施設も駅から近いので、通路としても使えるかたちに出来れば、自然と歩道として使ってもらえる。それから由利本荘の施設は珍しいことに中に民間のテナントが2つ入っていた。ひとつはコンビニエンスストア、もうひとつは食堂の予定。コンビニはあると非常に便利。以前も中にドトールなどがあれば人が自然に集まると言ったが、コーヒーショップでも良いので、是非検討して欲しい。それが市の収益に繋がっても良いし、運営費として回せるかと思う。そこに行けば美味しいコーヒーが飲める、それだけでもそこに来ているいろんな商談をしたり、相談をしたりする場が出来ると思うので、是非検討頂ければと思う。

委員長：テナントについても何度か議論され、周辺の商店街との関連で、一時的な仮設のものも含めて、そういうアイデアについては実際にこれから運営とからめて検討していきたいというお話もあったので、その辺はこれからの基本設計、実施計画に向けて、なにか鹿角市なりのアイデアの出どころ。これからいろいろ議論されればよろしいかと。

委員：本荘市の場合はテナントは初めから2つ設定していた。基本計画の段階で入っていたが、ここは交流機能の中にどういうコーナーを設けるかの話。似たようなものが上手く出来るのではないか？通り抜けは有効。石狩でやっていて、見に行っただがやはり良い。通り抜けられるところには必ず人が来る。行き止まりのところには人が来ない。止めない方が絶対に良い。通り抜けられた方が便利。自然と人が歩く。この計画に記載しなくても良いが実際やられる時に上手く通り抜けられて、買える物か、飲む物か、食べる物かというのはなにかあった方が良い。まったく無いと行く人が出て来ない。従来の文化施設の複合という考え方では、なかなか賑わいには繋がらないし、それはさっき心配されたとおりになる。だから、交流施設にそういう機能が設けられて、人が通り抜けて来られれば、文化ホールも使われやすくなるし、図書館も使われやすくなる。

委員長：技術的には出来るかと思うが、そういう必然性があるかどうか。例えば、A点からB点、駅から学校を繋ぐとか、この場合にはそういうルート上にあるかどうか通り抜けになるかどうか。あともうひとつは、ただ通り抜けただけでは困るので、施設の利用に繋がっていく通り抜け。その辺は、基本設計なり具体の計画の中でアイデアが沢山出てくるかと思う。

委員：私のイメージでは、ここを通行禁止にすると遠回りとなるくらいしか考えられない。やはり人を集めるにはテナント、飲み食いとか買い物を実際に考えていく必要がある。そこが賑わいをつくる事が出来るか出来ないかのポイント。是非取り上げて欲しい。もうひとつ、この間あんたらあで記録映画を観たが、やはり映す環境ではなかった。映写施設を是非つくって欲しい。

委員長：前の委員会でもコーヒーを飲めたりとか、食事を取れたりという話が出たが、こういうものは必ずしも常設として織り込まなければ出来ない話では無く、屋台的なもので対応することも出来るし、需要があれば周辺の商店街の人も黙ってはいないだろうから、いろんなアイデアの出どころ。人が来るかどうか分かる前に最初から組み込むより、鹿角市らしいもっと

柔軟ないろんな対応が出来そうな気はする。是非その辺のところは、これからご検討されたら良いのではないか。

委員長：今日が最後の会議ということで、私の感想になるが、当初から出ていたように複合化されることによって、周辺の商店街通りが活性化されていく。例えば身近なところで十和田の美術館が出来て周辺の商店街が変わった。金沢にある現代美術の21世紀美術館も美術館が出来ることによってまち全体が大きく変わった。おそらく、今回の施設も文化的な要素を沢山含んでいるので、そういう力を持った施設として当然考えられる可能性はあるので、是非その辺を狙ってもらいたい。それからもうひとつは、この施設は敷地が狭く駐車場がとれるかどうかご心配がある訳だが、あの敷地だけで完結してみると狭いかもかもしれないが、実はそうではなく、あの敷地を含む駅まで含めたところが今回の全部の敷地だと考えれば、必ずしも周辺に駐車場まとめなければならないという発想にはならず、駐車場を分散した方がまちの中を人が回遊する。年に何回か300台止まることを狙うのではなく、まち全体の中で駐車場、賑わいを考えていくともう少し面白い仕掛けが出て来る。その辺は、これから実際に基本計画なり実施計画進めていく中でもう少しいろんなアイデアが出て来るのではないかと期待を込めて委員会で皆さんのご意見を伺った。まとめになったか分からないが、そういう意味ではいろんな意見が含まれた計画が出来上がったのではないかと考えているので、是非基本設計やら実施設計に向けてもう少し具体的話の中でさらにアイデアを積み上げていって頂きたいと思っている。

3 その他

事務局：10月以降6回にわたりお忙しい中お集まり頂き誠にありがとうございます。いろいろなご意見を頂きありがとうございました。ご意見をどういった形で基本計画に反映させるかは市の方で検討させて頂きたいとお願いしたいと思いますが、最終版には可能な限り反映させて頂きたいと思います。なお、今日の委員会で頂きました意見をふまえ、基本計画を最終案として今月の24日に市の庁議に諮りまして最終的な基本計画として決定されます。最終版につきましては皆様の方にお送りさせて頂きますのでご確認頂きたいと思います。先ほど申し上げましたように、建設までにはまだ時間がございます。スケジュールは基本計画、基本設計、実施設計といく訳ですが、皆様には本日の会議をもちましてこの検討委員会の委員は終わりとなりますが、随時ご意見等がございましたら、電話でも直接お出で頂いてもどのような形でよろしいですので、なるべく市民の皆様が使いやすくて、出来て本当に良かったなとかたちにして参りたいと思いますので、どうかこういう方向で建設するということにつきましては、ご了承頂ましてその上でこういう方向で意見があるとかたちで伺いたいと思います。今後とも、また、こちらからお願いして伺う機会もあると思いますが、どうかよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

4 閉会

15時55分閉会